特別養護老人ホーム 聖ヨゼフの園
創立 50 周年記念誌

社会福祉法人 聖母福祉会

目　次

Contents

あいさつ　50周年に寄せて　2

沿革・理念　6

特別養護老人ホームの外観　8

思い出のアルバム　9

特別養護老人ホーム職員からのメッセージ　65

聖ヨゼフの園の歩み　76

カトリック共同体の歩み　79

聖ヨゼフの園職員名簿　80

50周年に寄せて　―ひとりも失われないで―

社会福祉法人聖母福祉会
理事長　和野 信彦

聖ヨゼフの園創立50周年を迎えるにあたり、設立してくださいました天使の聖母宣教修道女会の皆様、そして初代園長として発展にご尽力をいただきましたシスター伊東千鶴子様をはじめとしたこれまでの園長、施設長の皆様、支えてくださった皆様に心より感謝と御礼を申し上げます。

わたしたち社会福祉法人聖母福祉会は「この世に命を与えられている限り、必要とされない命は一つもない」という信念のもとに、社会福祉事業を行っております。特に聖ヨゼフの園は老人福祉事業の施設として「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」という聖書のことばを基本理念に据え、昭和44年６月に開設されました。それから半世紀にわたりこの信念と姿勢に基づき、ご家族、地域と連携しながら、家庭的な温もりを伴う介護を提供することをめざし、ご利用者お一人おひとりとの人格的な関わりを大切にしてまいりました。

これまでの半世紀を振り返り、日本の社会は、創立当時とは比べようもないほどに豊かになりました。生活環境の改善と医療の発達により日本人の平均年齢も国際的にもトップレベルに上がり、社会としては超高齢化社会を迎えようとしています。これまでの日本の発展を支えてこられた方々が高齢期を迎え、介護と看護の支援が増え続けていくことは日本において避けることが出来ない現実です。このような現実の中で老人福祉事業は大きな使命を与えられていると思います。それは人間はその与えられた生命を最期まで尊厳を持って生きることがなければ、その生命が失われたものかのような虚しさを覚えてしまうことにつながるからです。

イエス・キリストは「わたしをお遣わしになった方の御心とは、わたしに与えてくださった人を一人も失わないで、終わりの日に復活させることである」と教えられています。これは、社会福祉制度というものが人を満たしていくのではなく、人が満たされていくための社会的な方策が制度なのでありそれは副次的なものだということです。つまり、人間の尊厳とは「ひとりも失われないで」という神のご意志に根源を持ち、関わる人々を通して守られていくということなのです。

そのために、何よりも求められていることは、揺らぐことのない温かい愛情を感じていただくことです。それが、ご高齢の方々の人生の安らぎとなり希望となります。そうして人は、いのちの尊厳を築き上げていくことが出来るのです。聖ヨゼフの園では、人間のいのちの尊厳の根源は神から与えられたいのちであり、神はそのいのちが「ひとりも失われない」ことをお望みになられていることを常に忘れません。そして、これからもご利用者様に対し「モノ」ではなく「真心」を与える努力を通して、互いに人間として向かい合い、かけがえのない存在として交わり、皆様の幸せのために奉仕し続けてまいりたいと思います。

50周年に寄せて

初代園長 シスター　伊東 千鶴子

聖ヨゼフの園が創立50周年を迎えられたことに心からお祝い申し上げますと共に、この歩みの中に働かれた神のみ業とこの事業を支えて下さった多くの方々に感謝致します。

私にとって50年の歳月は驚きと喜びでいっぱいです。振り返ってみますと、高齢化社会を目の前にして不安の方が大きく、どの様に応えていったらよいか解りませんでした。西部、東部の大先輩の方々のご指導を仰ぎながら、中部地区で第一歩を踏み出したことは、神への信頼と人々への愛が弱い私を動かしたからだと思います。当初からのハプニングは数えきれません。一ヶ月後には定員50名となり順調に運営されていったと言えましょう。お年寄りの状態は、家庭で寝たきりのまま10年近くお世話された方など、措置費制度の時でしたので想像を絶するものでした。その様な中、私たちは利用されたご家族とのふれあいから多くのことを学ばせていただくと同時に慰めもいただきました。３年後には定員100名となり、利用者やご家族からの喜びの声は私たちの労苦や不安を拭い去り、新しい力が与えられたことは神の摂理があってのことでした。

日本社会の変遷は早く、老人福祉も大きく進歩し、在宅福祉へと開かれていくと同時に医療の進歩も大きく、超高齢化社会へと移っていきました。この長い年月の間、歴代の園長様方は時のしるしを見分け、「今、何が大切か」を識別し、それに応えていって下さったことに感謝致します。私自身高齢の域に入り感じることは、複雑な時代になり高度な知識と技術が求められていることを感じます。聖ヨゼフの園が地域社会の拠点となって、その時代の必要に応える施設、地域の人々から信頼され支えられる施設であり続けることを祈ります。聖ヨゼフの園の聖句のように、此処を訪れる人々に神のいつくしみと平和が心の中にもたらされますように。

50周年に寄せて

園長　森　政也

50年の歴史を刻み、新たな歩みを踏み出すことができたのも、これまで聖ヨゼフの園を支えてくださったすべての方々のおかげと心より感謝とお礼を申し上げます。

私が聖ヨゼフの園を初めて訪れたのは、静岡県新規採用職員研修での福祉施設体験でした。男性入所者の方の食事のお手伝いをさせていただきましたが、思うようにコミュニケーションが取れず、途方に暮れたことを遠い昔の記憶として覚えています。その後、聖ヨゼフの園を訪れる機会はなく、また、仕事上での関りも全くないまま長い歳月が経過していたところ、人生の全く予期しないタイミングで素晴らしいお恵みをいただき、平成26年４月より園長として勤務させていただいております。

我が国は、昭和40年代に入り高齢者人口の増加に伴い、寝たきり高齢者の問題が社会問題化し、特別養護老人ホームの整備が緊急の課題となりました。当時、県内には特別養護老人ホームが３カ所しかなく、しかも中部地区には１カ所もありませんでした。そのような状況にあって、天使の聖母宣教修道女会のシスター達は、社会の中で今、最も必要とされているものに応えるために、特別養護老人ホームの建設に着手しました。設立に携わったシスター達の献身的な努力を思い起こすとき、身が引き締まる思いがいたします。

50年という長い歩みの中で、確かな伝統を培ってきましたが、一方、どんな組織でも課題がないことはありません。聖ヨゼフの園を見渡したとき、介護現場を支える医療体制の整備、将来を見通せる賃金体系の構築、老朽化した設備・備品の更新等々、特に労働環境面において取り組むべき数々の課題があることを感じました。「事業所として職員を大切にする姿勢が、職員が利用者を大切にする姿勢に繋がる」という林健久前理事長の思いもあり、これらの課題への対応を重点的に進めてまいりましたが、未だ道半ばです。

次の75周年、100周年に向けた新たな歩みがスタートしました。待ち受けているのは、人口が減少し、働き手も減り、社会が縮小していくという先例のない時代ですが、その中にあっても、聖ヨゼフの園がカトリック施設として、神の御心にかなう営みを続けていくことをお祈りしています。

50周年に寄せて

副園長
特別養護老人ホーム施設長　松下 公子

特別養護老人ホーム聖ヨゼフの園は、天使の聖母宣教修道女会のシスター達の尽力によって昭和44年に設立され、50年の歳月が過ぎました。静岡県の中部地区では初めての特別養護老人ホームということで、運営や処遇に相当のご苦労をされたと聞いています。古い写真には、修道服姿で食事介助や排泄介助をするシスター達が写っており、衝撃を受けました。シスター達の熱意は、地域の皆様や入居者のご家族、ボランティアの方々にも伝わり、多くの人々の支援や協力の輪が拡がって、今日の聖ヨゼフの園があると思います。

私と園との出会いは、20年程前にヘルパー１級の実習でお世話になった時です。専門的な介護職の養成施設を卒業した若い職員が数名いましたが、殆どの職員は、40歳代のヘルパー資格を持った、子育てがひと段落した女性達でした。男性は、上司として２人だけだったと記憶しています。家庭的な雰囲気や同じ年代の職員が多いことに安心感を抱き、入職させていただきました。当時も介護職員は足りない状況で、先輩職員から十分に説明や教育を受ける時間もなく、すぐに現場に出て、一人の介護職員として働き出しました。幸いにも上司や仲間の職員に支えられ、日々楽しく仕事をさせていただいてきましたが、現場での経験年数が長くなり、重責を任せられるようになりました。平成30年度からは特別養護老人ホームの施設長として、現場の管理監督者の役割を担うことになりました。カトリック教会の司祭である理事長が複数の教会司牧に加え、保育園・幼稚園業務などの兼務も多く、多忙を極めているため、園長が理事長を補佐し、全体の経営管理について重点的に取り組むためでした。

措置制度から介護保険制度へ移行し、園も10年程前に個室のユニット棟を増築、既存の棟は４人部屋への改修を行い、ハード面を整えることができました。若い男性職員も多く働くようになり、職場の雰囲気も昔とは変わりました。特養の入居要件も現在では、原則として要介護３以上の方となっています。重度の方や高齢の方を受け入れるようになり、園での滞在期間も短くなっています。措置制度の時代には、60歳くらいで入居して、20年以上生活される方もいらっしゃいましたが、今後はそのような方には出会えないと思います。自宅や病院ではなく、施設が最後の住まいとなり、ここで最期を迎える方も多くなりました。近年、「看取り介護」という言葉が使われるようになりましたが、カトリックの施設であったことから、看取りに対しては、抵抗や苦労もなく受け入れることができる環境にありました。看護師を中心に最期の時まで穏やかに、苦痛なく過ごせるように配慮し、傍らに寄り添える時間を大切にしています。「最期の時が聖ヨゼフの園でよかった」と思っていただけるように、愛と優しさに包まれた生活を送っていただけるように、これからも職員と共に努力してまいります。

今後とも皆様の温かなご指導、ご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

特別養護老人ホーム 聖ヨゼフの園

本園は、天使の聖母宣教修道女会のシスターたちの献身的な働きにより、静岡県内で4番目、中部地区で初めての特別養護老人ホームとして、昭和44年（1969年） 6月に設立されました。

この世に命を与えられている限り、必要とされない命は一つもありません。カトリックの人間観に基づき、キリストの愛と謙遜・信頼・忍耐を持って、私たちの手を必要とする方々を、自由と平等のうちに受け入れることを目指しています。

社会福祉法人 聖母福祉会

当法人は、パリ外国宣教会（東アジアの宣教を担当するカトリック教会の宣教会）によって昭和25年（1950年）に設立された清水聖母保育園をもって社会福祉活動の第一歩を踏み出し、昭和41年（1966年）に社会福祉法人の設立認可を受けました。以後、掛川、徳山、浜松、岡部、藤枝、島田に保育園を、静岡に聖ヨゼフの園を順次開設し、「この世に命を与えられている限り、必要とされない命は一つもない」という信念のもとに、生涯にわたる人格形成の基礎を培う乳幼児期の子どもの育ちと、生涯の最期の大切な時期にあたる高齢期の方々の生活を支援しています。なお、平成29年（2017年）には聖ヨゼフ診療所を開設し、現在、静岡県中西部に９施設（保育施設７、老人施設１、医療施設１）を運営しています。

基本理念

「疲れた者、重荷を負う者は、
だれでも私のもとに来なさい。休ませてあげよう」
（マタイによる福音書11章28節）

「そのとき、イエスはこう言われた。『天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした。すべてのことは、父から私に任されています。父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかには、父を知る者はいません。疲れた者、重荷を負う者は、だれでも私のもとに来なさい。休ませてあげよう。私は柔和で謙遜な者だから、私の軛（くびき）を負い、私に学びなさい。そうすれば、あなたは安らぎを得られる。私の軛は負いやすく、私の荷は軽いからである』」（マタイによる福音書11章25節～30節）

このイエスのことばに「軛」というものがあります。「軛」とは、農耕のために家畜（牛やロバ）２匹を左右に並ばせ首に枷（かせ）をつけて一組にし、同時に引かせるために用いる道具のことです。時には奴隷のように働かせる苦役という意味を持つものです。

しかし、イエスは「私の軛は負いやすく」と言います。本来なら苦役の象徴のようなものが負いやすいものとなるのはなぜでしょう。私たちの人生の困難や老いという軛（くびき）は無くならないが、首を入れる二つの穴の片方をイエスが担ってくださるから負いやすくなるのだと言うのです。そして、重い荷をイエスが共に負ってくださるから軽くなるのだと語っているのです。

イエスは、支えを必要としている者、助けを必要としている者と共にその重荷を負い、共に歩むことが神さまのお望みであることを、自らの十字架での死をもってまでもお示しになりました。何故なら、この世界においては、有益である有用であると賞賛されることがその存在価値を決めてしまう傾向がありますが、この世界にあっていらない命など何一つないことを「知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになる」ことが父である神さまの御心であるからです。

聖ヨゼフの園は、そうした助けを、介護・看護を必要としている高齢者のために設立されました。それは単に福祉のためのサービスを提供することだけに留まることではありません。この社会において神が与えてくださった命が、最後の時まで大切にされる（＝愛される）ことが神さまの望みであることを、設立の土台に据えています。

理事長　和野 信彦

処遇方針

この世に命を与えられている限り、必要とされない命は一つもないという信念のもとに、ご利用者お一人おひとりとの人格的な関わりを大切にします。この信念と姿勢に基づき、ご家族、地域と連携しながら、家庭的な温もりを伴う介護を提供することをめざします。

本館（多床室）

新館（ユニット型個室）

診療所

聖ヨゼフの園の墓地（愛宕霊園）

竣祝工
特別養護老人ホーム 聖ヨセフの園

聖ヨセフの園

昭和44年(1969)

聖ヨゼフの園は、天使の聖母宣教修道女会のシスターたちの献身的な働きにより設立されました。

起工式

第一期工事

竣工

居室

廊下

事務室

浴室

この年の出来事『東名高速道路全線開通』

昭和44年5月26日、東名高速道路が全線開通した。開通により移動時間が短縮し、渋滞が緩和された。

竣工式

荒井横浜教区司教

祝 別

静岡県民生部長・静岡市長

祝賀会

昭和45年(1970)

寮母さん

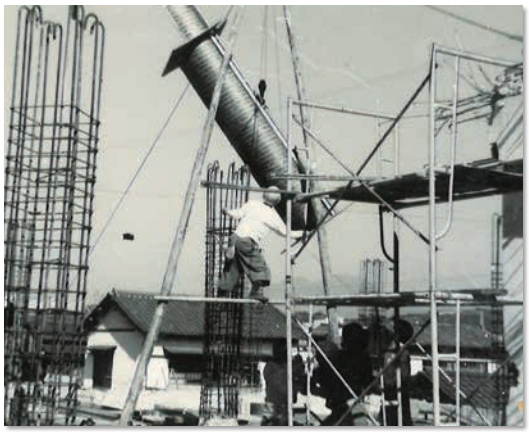
回 診

この年の出来事『 大阪万博開催 』

大阪府吹田市にて開催されたアジア初の国際博覧会で、当時史上最大の規模を誇った。

昭和46年(1971)

第二期工事



この年の出来事『アポロ14号月面に着陸』

アメリカの有人宇宙飛行機アポロ14号が月面に着陸し、月面での活動を行った。

昭和47年(1972)

新聞に載りました

この年の出来事『札幌オリンピック開催』

第11回冬季オリンピック札幌大会が開催された。ジャンプ70m級では、日本人が冬季オリンピック史上初めて表彰台を独占した。

昭和48年(1973)

三味線を弾く

入浴サービス開始

運動会

この年の出来事『第一次オイルショック』

石油危機が世界各国を直撃。日本経済も、それまでの高度成長から低成長路線への転換を余儀なくされた。

昭和49年(1974)

高松宮様ご夫妻ご来園

この年の出来事『 七夕豪雨 』

台風8号が梅雨前線を刺激し静岡県下に大雨を降らせた。
特に静岡市内は未曾有の豪雨に見舞われた。

昭和50年(1975)

居室の様子

作品展

文化祭 スーパーヨゼフ

この年の出来事『 沖縄国際海洋博覧会開幕 』

沖縄島北部にある本部町で「海－その望ましい未来」をテーマに沖縄国際海洋博覧会が開幕した。約350万人が来場。

昭和51年(1976)

節 分

マジックショー

運動会

この年の出来事『ロッキード事件』

アメリカの航空機製造大手のロッキード社による旅客機の受注等をめぐる世界的な大規模汚職事件。

昭和52年(1977)

お茶会

収穫祭

餅つき

この年の出来事『 気象衛星「ひまわり」打ち上げ』

日本初の本格的実用衛星「ひまわり」がアメリカ・フロリダ州ケープカナベルから打ち上げられた。

昭和53年(1978)

母の日

あじさい見物

仮 装

遠足（日本平動物園）

この年の出来事『新東京国際空港開港』

千葉県成田市に新東京国際空港（現・成田国際空港）が開港した。新空港建設の方針が閣議決定されてから10年以上が経過した。

昭和54年（1979）

創立10周年記念式典

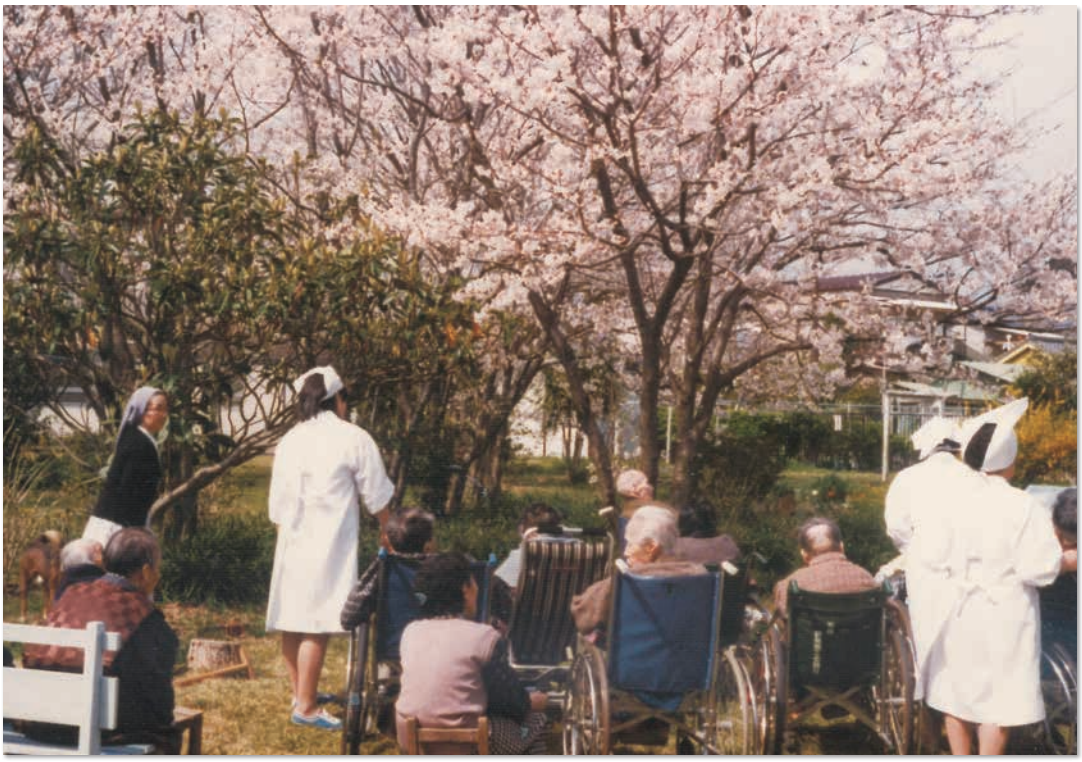
輪投げ大会

長寿のお祝い（静岡市長）

この年の出来事『ウォークマン1号機発売』

持ち運びができて、どこでも視聴可能な、小型・軽量・薄型ポータブルオーディオプレイヤーが発売された。

昭和55年(1980)



お花見

敬老祝賀会

陶芸クラブ

この年の出来事『 静岡駅前地下街爆発事故 』

静岡市紺屋町にある静岡駅地下街で発生したメタンガスと都市ガスの2度にわたるガス爆発事故は、15人が死亡、223人が負傷する大惨事となった。

昭和56年(1981)

電動浴槽

輪投げ大会

運動会

この年の出来事『ダイアナ妃とチャールズ皇太子挙式』

7月、ダイアナ妃とチャールズ皇太子が結婚式を挙げた。
華やかな様子は今も人々の記憶に残っている。

昭和57年(1982)

遠足（文化センター）

墓参り

みかん狩り

この年の出来事『 リニアモーターカーの試験走行成功 』

国鉄の実験センターにおいて、超電導リニアモーターカーの試験が行われ、世界で初めて人を乗せての走行に成功した。

昭和58年(1983)

年 賀

器楽発表会

吟行

この年の出来事『東京ディズニーランド』

大人から子どもまで楽しむことが出来る、大人気有名テーマパークが千葉県浦安市に開園した。

昭和59年(1984)

お花見

納涼祭

長寿のお祝い（静岡市長）

この年の出来事『エリマキトカゲ』

当時放送されていた車のテレビCMなどでエリマキトカゲが一躍話題となり、一時大流行となった。

昭和60年(1985)

喫茶始まる

登呂遺跡見学

カラオケ大会

この年の出来事『つくば万博』

様々な国や企業がパビリオンを連ねたつくば万博は、まさに21世紀に対する期待の縮図となった。

昭和61年(1986)

誕生会

松坂屋デパートに作品を展示

もちつき

この年の出来事『男女雇用機会均等法施行』

募集・採用や配置・昇進・福利厚生、定年・退職・解雇における、性別を理由にした異なる取扱いが禁止された。

昭和62年(1987)

春の遠足（城北公園）

中国料理を楽しむ会

お茶会

この年の出来事『JR発足』

中曽根内閣が実施した行政改革により、日本国有鉄道（国鉄）がJR各社に分割、民営化された。

昭和63年(1988)

おとそ

作業風景

中国料理を楽しむ会

この年の出来事『青函トンネル開通』

青函トンネルは、日本鉄道建設公団によりトンネル建設技術の粋を集めて建設された。海底トンネルとしては世界最長の約53.9kmの距離を誇る。

平成元年(1989)

長寿のお祝いの会

バイキング

召天者記念会

焼き芋

この年の出来事『消費税３％導入』

財政再建の切り札として、消費税法が施行され、消費税率３％が導入された。

平成 2 年(1990)

お茶会

芋煮会

餅つき

この年の出来事『 第1回大学入試センター試験を実施 』

日本の大学の共通入学試験として、それまでの『大学共通第 1 次学力試験』の名称が改められ、『大学入試センター試験』が実施された。

平成 3 年(1991)

バーベキュー

敬老式典

この年の出来事『 雲仙・普賢岳火砕流発生 』

長崎県の島原半島中央部にそびえる火山、雲仙・普賢岳で大火砕流発生。前年の噴火活動再開は198年ぶりのことだった。

平成 4 年(1992)

第20回運動会

中国料理を楽しむ会

クリスマス会

この年の出来事『新幹線「のぞみ」運行開始』

JR東海によって「ひかり」より速い新幹線として誕生した。
東京—新大阪間を従来より19分早い2時間30分で結んだ。

平成 5 年(1993)

花の日訪問（静岡英和女学院）

ふれあい広場

作 業

この年の出来事『Jリーグ開幕』

日本プロサッカーリーグが発足し、最初のシーズン戦となったサントリーステージが10クラブで開幕した。

平成 6 年(1994)

創立25周年記念

この年の出来事『日本人女性史上初スペースシャトル搭乗』

日本人初の女性宇宙飛行士の向井千秋さんを乗せたスペースシャトル、コロンビア号が打ち上げられた。

平成 7 年(1995)

創立記念祝賀会

小学生の介護体験教室

夏祭り

この年の出来事『 阪神・淡路大震災 』

1月17日早朝、兵庫県周辺の明石海峡を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生した。

平成 8 年(1996)

藤の花交流（静岡女子高）

お花見

夏祭り

この年の出来事『 羽生善治棋士の快挙 』

前人未到の 7 冠制覇を達成した。若干25歳の若手棋士が全タイトルを獲得したことで人気を博した。

平成 9 年(1997)

書初め

年 賀

介護クッキング

芋ほり

この年の出来事『 消費税５％に引き上げ 』

橋本龍太郎内閣が消費税５％への引き上げを実施した。

平成10年(1998)

運動会

創立記念祝賀会

七夕飾り

この年の出来事『長野オリンピック開催』

自国開催の冬期オリンピックに沸き上がり、ラージヒル団体の金メダル獲得など多数の競技で好成績を残した。

平成11年(1999)

年 賀

おとそ

防災訓練

この年の出来事『 石原慎太郎、東京都知事に当選。 』

芥川賞作家の石原慎太郎氏が国会議員を経て東京都知事選に出馬し、初当選を果たした。

平成12年(2000)

動物訪問

子どもみこし（八幡四丁目子ども会）

八幡神社夏祭り

八幡聖母幼稚園児の訪問

この年の出来事『九州・沖縄サミット開催』

主要国首脳会議が国内史上初めて地方で開催された。また、沖縄県の守礼門を図柄とした二千円紙幣も発行された。

平成13年(2001)

雪景色

ボランティア活動（高松中学校PTA）

この年の出来事『USJ開園』

人気ハリウッド映画の世界を体験できるテーマパークとしてユニバーサル・スタジオ・ジャパンが大阪に開園した。

平成14年(2002)

敬老祝賀会

墓 参

この年の出来事『 住民基本台帳ネットワーク開始 』

住民基本台帳をネットワーク化し、全国共通の本人確認ができるシステムが構築された。

平成15年(2003)

運動会

不在者投票

この年の出来事『 地上デジタル放送開始 』

従来のアナログ方式から、より高品質の映像・音声でテレビが視聴可能なデジタル方式放送へ（完全移行は2011年）。

平成16年(2004)

クリスマス会

中国料理を楽しむ会

この年の出来事『新潟県中越地震』

新潟県中越地方沖を震源とするマグニチュード6.8、最大震度7の直下型の地震が発生した。

平成17年(2005)

芋煮会

柿狩り

八幡神社散策

この年の出来事『愛知万博開催』

日本国際博覧会開催。愛称として「愛・地球博」、開催地の名から「愛知万博」とも呼ばれイベントキャラクターも人気に。

平成18年(2006)

八幡聖母幼稚園児の訪問

鍋を囲んで

八幡神社例大祭散策

この年の出来事『トリノオリンピック開催』

イタリア、トリノで開催され、荒川静香選手がフィギュアスケート女子シングルで日本人初の金メダルを獲得した。

平成19年(2007)

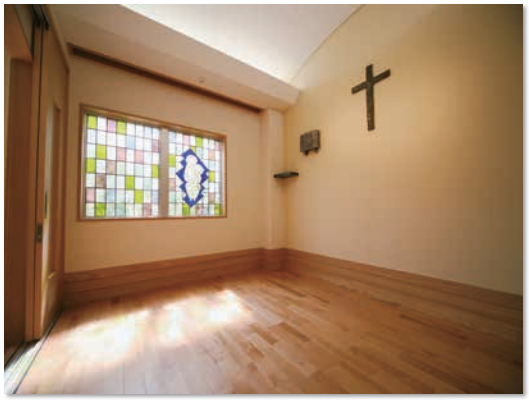
新館（ユニット型個室）増築

この年の出来事『第一回東京マラソン』

東京で初めての大規模な一般市民参加型のマラソン大会が開催され、多数の参加者が都内を駆け巡った。

平成20年(2008)

本館改修・耐震工事完了



この年の出来事『ノーベル賞を日本人3人が同時受賞』

青色発光ダイオードを開発した日本人科学者3人がノーベル物理学賞を受賞した。

平成21年(2009)

食事会

夏祭り

ハーモニカ演奏会

この年の出来事『裁判員制度がスタート』

有権者から選出された裁判員が裁判官とともに審理に参加する裁判員裁判が始まった。

平成22年(2010)

年 賀

創立記念祝賀会

この年の出来事『「はやぶさ」帰還』

「はやぶさ」が7年ぶりに地球へ帰還。探査機本体からイトカワの砂が入っている可能性のあるカプセルを分離した。

平成23年(2011)

花の日訪問（静岡英和女学院）

お花見

収穫感謝の訪問（静岡英和女学院）

この年の出来事『 東日本大震災 』

3月11日14時46分、宮城県牡鹿半島の東南東沖約130kmを震源とするマグニチュード9.0の地震が発生した。

平成24年(2012)

お花見

運動会

クリスマス会

この年の出来事『東京スカイツリー開業』

展望台などを備えた観光・商業施設やオフィスビルを併設した電波塔が東京都墨田区に開業した。

平成25年(2013)

年 賀

森下小学校より車椅子の寄付

ふれあいショッピング

この年の出来事『富士山が世界文化遺産登録』

日本を象徴する国内最高峰の『富士山』が『三保の松原』とともにユネスコ世界文化遺産に登録された。

平成26年(2014)

書初め

お花見

運動会

岡部聖母保育園児の訪問

秋探し（静岡女子高）

クリスマス訪問(静岡雙葉学園)

八幡聖母幼稚園児の訪問

クリスマス会

この年の出来事『**消費税８％に引き上げ**』

高齢化で増え続ける社会保障費を賄うため、消費税率が５％から８％に引き上げられた。

平成27年(2015)

年 賀

節 分

この年の出来事『 選挙権が18歳以上に改正 』

改正公職選挙法が成立し、選挙権年齢が20歳以上から18歳以上に引き下げられた。

平成28年(2016)

食事会

非常用井戸設置

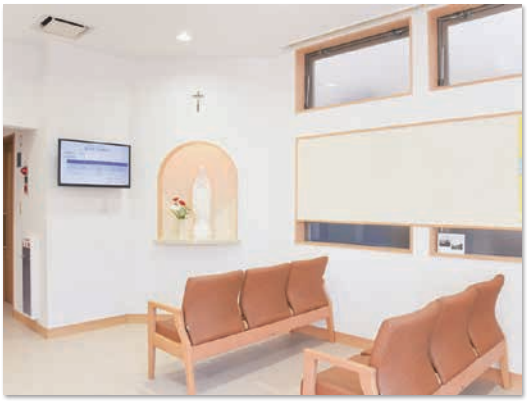
ふれあいショッピング

この年の出来事『 小池新都知事誕生 』

東京都知事選で元防衛相の小池百合子氏が初当選し、東京都に初めての女性の知事が誕生した。

平成29年(2017)

4月 聖ヨゼフ診療所開院



工事前

7月 2階ホール改修工事完了

天井落下防止工事

避難者用間切り

この年の出来事『シャンシャン誕生』

上野動物園にジャイアントパンダのメスの赤ちゃんが誕生した。シャンシャン（香香）と名づけられた。

平成30年(2018)

消防分団の出初式

静岡市立八幡こども園児の訪問

クリスマスミサ

この年の出来事『 豊洲市場オープン 』

開場以来80年以上にわたり、都民へ生鮮食品供給の役割を果たしてきた築地市場が豊洲市場へと移転された。

平成31年(2019)　令和 元 年(2019)

お花見弁当を楽しむ会

夏祭り

この年の出来事『「令和」決定』

5月1日、平成から令和に改元され新たな時代の幕が明けた。日本の古典和歌集『万葉集』が言葉の由来となった。

特別養護老人ホーム

職員からのメッセージ

■　このたび創立50年の節目を迎えることができたのは、皆様からこれまで多くのご支援・ご協力をいただいたからこそと感謝申し上げます。

この50年という年月に社会が変わり、施設も変わってきました。当施設も現在は、個室と４人部屋（多床室）となりましたが、ほんの10年ほど前までは、一部屋８人という所謂大部屋でした。しかし、職員の多くは、ハード面では劣るものの、その分入所者やご家族の皆さんへのよりよい介護、温かな関係作りでカバーしようという気持ちが強く、それによって施設の評判を維持できたことで、さらなるモチベーションアップにつながっていった、そんな時代が今につながっていると思います。

市内にまだ特別養護老人ホームがなかった時代に創設したシスターの思いを引き継ぎ、様々な理由で施設を利用したいと願う皆様の力になれる聖ヨゼフの園でありたいと思います。

相談員　**町田 和幸**

■　私が聖ヨゼフの園に就職したのは“うん十年前”。当時は、男性がこのような職につくのは珍しい時代でした。カトリックの老人福祉施設ということで、厳粛で静寂な場所と思っていました。ところがどっこい、中に入ってみると、あっちでワイワイ、こっちでガヤガヤ、とても賑やかで生活感が溢れているように感じ、ビックリしました。職員は女性ばかり。「ここでは男の人も何でもするのよ」と言われ、掃除、洗濯、皿洗い等々、何でもやらされ…おっと失礼、何でも進んでやりました!?ヘタでも一生懸命やっていると、先輩職員、なによりも利用者さんが労ってくれました。賑やかな中でも、どこか神聖な家族のような、そんな居場所がいいなあと感じます。

今はというと、掃除にハマっています。初心に帰って、「50年分の垢を落とす気持ちで頑張るぞ！オー!!」「アイタタ…腰が…」「まったくもう…。もういい歳なんだから！」「ごもっともです。トホホ…」

介護士　**山田 睦**

■　私が聖ヨゼフの園で看護師として働き始めたきっかけは、今は亡き修道院のシスターからの一本の電話でした。「あなたは今、何してるの？」という問いに、家の事情で一年ほど仕事から離れていた私が「そろそろ働こうと思っています」と答えたことが、施設看護師として長い間、聖ヨゼフの園に関わらせていただく始まりとなりました。

施設看護師として介護の現場で働くとはどういうことか考えてきました。そして今、思うことは、多くのご利用者の人生の最期の大切な時に立ち会わせていただいたことへの感謝の気持ちです。お一人おひとりの人生に敬意を表したいと思います。

50年間、地域に親しまれ、育てていただいた聖ヨゼフの園が、これからもカトリック精神を忘れず、すべての人に寄り添っていくことができますよう祈っています。

看護師　**松井 理恵**

■　私が聖ヨゼフの園に就職したのは、ちょうど創立25周年の時でした。当時は、若い男性職員が少なかったこともあり、皆様（先輩職員や利用者様）によく可愛がってもらいました。シスターたちも日々、労働やボランティアなどで目にすることが多かったので、カトリックの施設なのだなと思ったものです。
今でも印象に残っているのは、シスターたちが黙々と作業する姿でした。言葉で『○○をして下さい』などと言わず、自分たちの働きによって伝える姿を通し、カトリック精神を伝えていたのだと思います。施設の基本理念だけでなく、「働くこと」に関しても色々と教えていただいた気がします。
あれから25年。自分のキャリアからしたら、先輩方やシスターたちから伝えられてきたことを伝える立場となりました。後輩には伝えられているのでしょうか。口で言っているようではまだまだ伝えられていないですよね。精進します。

事務職員　**鈴木 智幸**

■　聖ヨゼフの園に入職した頃、今と状況は違いますが、先輩方のご指導のもと、いろいろ学ばせていただきました。戸惑うことも多く、先輩方にご迷惑をかけてしまったと思います。しかし、厳しさの中にも、温かい心と一生懸命指導して下さる先輩方を見て、早く一人前の介護士になれるように頑張ろうという思いでやってきました。今の自分があるのは、聖ヨゼフの園で一緒に働いてきた職員の皆様のおかげです。本当に働きやすい職場です。
利用者様と関わる中で心に残ったことは、利用者様と外出した際に、車の中から外の景色を見ている時の表情が、普段見ることのない懐かしさを感じているかのようで、ずっと外を見つめる姿は、今でも忘れられません。
これからも、利用者様と接する時間を大切にし、感謝の気持ちを忘れず、聖ヨゼフの園で学んできたことを今後も生かせるように、努めていきたいと思っています。

介護士　**山杢 文子**

■　人と関わる仕事をしたいと聖ヨゼフの園に勤めさせていただいてから、早いもので20年近くなりました。ご利用者様やご家族様からかけていただいた労いの言葉や笑顔に癒され、多くを学び、指導していただきながら今日まで勤めることができました。今の自分があるのも、ここまでやってこられたのも多くの方々に支えられ、聖ヨゼフの園であったからこそと改めて感謝しております。ご利用者様と共に過ごさせていただけることは、とても尊く、かけがえのないものだと日々感じております。ここで学ばせていただけたおかげで、大好きだった父の希望どおり、家で家族に囲まれ、穏やかに最期を迎えることが叶いました。
私のような信仰のない者でも神様は受け入れてくださり、愛に触れ、成すべき使命を与えて下さいます。今後も、その方らしさを大切に、家庭的な温もりを感じていただけるよう、寄り添ったケアを行っていきたいと思います。

介護士　**山本 久美子**

■　聖ヨゼフの園が50周年を迎え、一職員として大変嬉しく思います。私が入職して、17年程が経ちますが、振り返りますと、長いようであっという間だったように思います。入職したばかりの頃は、介護の仕事が全く分からない状態だったので、続けていけるか不安でしたが、今こうして続けていられるのも、優しい上司や先輩方、一緒に働く心強い仲間がいたからだと思います。また、様々な利用者様との出会いもあり、人生の先輩として色々な事を教えていただいたことに、とても感謝しています。「共感・共有・共生」を常に意識し、これからもご利用者、ご家族、職員一人ひとりとの出会いを大切にし、日々笑顔で努めていきたいと思います。

介護士　**石田 真弓**

■　私が勤め始めた二十数年前より以前から、聖ヨゼフの園は、静岡では歴史のある施設であり、カトリックの教えのもと、園長をはじめカトリック信者の職員も在職していました。その中でたくさんの方に優しく、温かく支えられながら、時には厳しく指導していただいて、ここまで頑張ってこられたことに感謝しています。時が経ち、楽しい思い出ばかりではなく、辛いこともたくさん経験しながら、人生の先輩である、たくさんの利用者様からいただいた様々なこと全てが、私にとってかけがえのない貴重な宝であると感謝しながら、毎日の職務に取り組んで頑張っていきたいと思います。

これからも聖ヨゼフの園が神様に守られ、職員がひとつになって支え合いながら成長していくことを願っています。

介護士　**天野 邦彦**

■　聖ヨゼフの園に見学に来た時、小学生の頃の訪問でご利用者と遊んだ園庭の懐かしさと、施設の穏やかで優しい雰囲気に惹かれ、こちらで働きたいと願いました。

入職すると、90名の食事と栄養管理を任された責任と施設の歴史の重みに身が引き締まる思いでした。献立や給食運営に対し、初めの数年は、厳しい意見も当然いただきましたが、歴代の園長、職員の方々、ご利用者の笑顔、神父様やシスターの温かいお言葉に励まされ、ここまで働くことができたと感謝しています。

聖ヨゼフの園の一日は、朝礼の祈り、理念唱和、聖書朗読に始まり、シスターの夕の祈りと朗読で終わります。私は、法人の基本理念と祈りの言葉が大好きで、朝はこの言葉に背中を押され、夕はシスターのお声の温かさに癒されます。

人生の最期を聖ヨゼフの園で迎えるご利用者に、家庭的で温かみのある食事が提供できるこの環境に感謝し、使命を果たしていきたいと思います。

管理栄養士　**高柳 木綿子**

■　創立50周年という記念すべき年に、職員として介護の仕事に携われることを大変嬉しく思います。

創立当初より幾多の困難を経ながら今日まで50年の歴史を歩んできたと思います。そして、それを支えてこられた法人の方々、理事長や園長をはじめ多くの先輩の方々に心から感謝します。

私が聖ヨゼフの園に入職して早14年が経ちました。入職した当時と比べると、駐車場ができ、本館の改修工事や新館の増築、診療所が開設され、大変近代的に様変わりしたように思います。私自身、宗教には無頓着でしたが、業務に携わる中で、施設の理念やカトリックの精神に触れることで、命の尊厳について深く考えるきっかけになったと同時に、寛容な心と慈愛を重んじる施設の一員であることを誇りに思います。

今年は、令和元年という大きな節目でもあり、今後の聖ヨゼフの園の発展を祈念しつつ、上司や同僚と力を合わせ、微力ながら貢献したいと思います。

介護士　**石川 輝男**

■　50周年の節目の折に、入職してから今までを振り返ってみると、毎日同じ事の繰り返しのようで、日々思いがけない出来事や新たな発見があったと感じます。そのような中で、仕事を楽しんで行うという姿勢を持つことの大切さを学ばせていただけたと思います。

ハード面は変化していますが、ちょっとした偶然や、ご利用者様と職員の会話の中から生まれる笑いや優しさに、温かく穏やかな気持ちをいただけるところは、変わらない魅力の一つだと感じています。そういった温かい雰囲気を大切にしながら、ご利用者様の心に思いやりを持って寄り添い、笑顔溢れる毎日を過ごしていただけるよう、これからも努めていきたいと思います。

介護士　**鈴木 真那子**

■　私は、聖ヨゼフの園に入職する前、「利用者様も職員もカトリック信者でなければ入れないの？」等のイメージを持っていました。時々、友人にも同じことを質問されるので、同様の疑問をお持ちの方もおられるのではないでしょうか。しかし、実際はイメージと違い、私を迎えてくれたのは、理念どおり誰でも受け入れようという温かい雰囲気でした。

誰にでも温かく、地域に開かれた施設であるとともに、そこに集まってくれるボランティアの方や様々な方が関わってくれたおかげで、聖ヨゼフの園は50周年を迎えられています。これからも皆様とともに、私も聖ヨゼフの園の一員として歩んでいけたらと思っています。

介護士　**相馬 昭仁**

■　聖ヨゼフの園に勤め始めてから10年以上が経ちました。いつの間にか新任職員に仕事を教えることや、仕事上の判断をする機会が多くなりました。人を育てることの難しさを感じ、ご利用者への対応に悩みながらも、多くの職員の方々に支えられて毎日仕事をしています。

創立50周年を迎えるにあたり、創立当初から今までの写真を見る機会がありました。多くの写真を見ながら、シスター方や先輩職員方、ボランティアや地域の方々など、実に多くの方々の力によってこの施設が支えられてきたことを実感し、歴史の重みを感じることができました。以前、法人研修で神父様より「人は宝」だと教えていただきましたが、改めてその言葉を思い起しました。

今後も、施設に関わる多くの方とのつながりを大切にしながら、家庭的な温もりのある介護ができるよう努力していきたいと思います。

介護士　**佐々木 晶子**

■　聖ヨゼフの園で12年間働かせていただきました。上司、先輩職員はもちろんのこと、多くのご利用者の方々、そのご家族の方々に支えていただき、今日まで勤めることができたと思っております。

学生の頃、ある先生が福祉について講義をされたとき、「ふ・く・し」の言葉の頭を取って、「普段」の「暮らし」の「幸せ」と話してくださいました。当時の自分には吸収することができなかったのですが、聖ヨゼフの園で仕事をさせていただき、理解、吸収することができました。入浴したときに「気持ちいい」と言ってくださる、食事をしたときに「美味しい」と言ってくださる、声掛けをしたときに「ありがとう」と言ってくださる。利用者との関わりを持つとは、こういうことだったんだなと思いました。今後の仕事、生活においても、「普段の暮らしの幸せ」という言葉を実践できればと思います。

介護士　**青島　崇**

■　私が聖ヨゼフの園に入職したのは2006年のことでした。高校生の頃、父親が病気を患い、不慣れながら家族と病気の父を看護し、そのときに、何かしら人の役に立てることはないかと思ったとき、介護という職業を見つけました。その後、専門学校に通い、ちょうど聖ヨゼフの園で実習をした際、ここで介護を通じての喜び、そして人の命の尊さを多く知ることができました。しかし、働く中で、学校で習ったことと、実際に介護を行うというのは全く違うことに愕然としました。失敗も、今思い出しても恥ずかしくなるくらい多く、気持ちも沈んでしまったとき、先輩方、同僚の方に本当に助けていただきました。辛いこのときがあったからこそ今の自分があると感謝の気持ちでいっぱいです。これからも初心を忘れずに聖ヨゼフの園でより良い介護のため努めていきたいです。

介護士　**市川 雄基**

■　最初は、聖ヨゼフの園の非常勤職員でしたが、そこで先輩職員から介護技術を教えていただきました。それまで、本格的に介護技術を教わったことがなく、最初は自分に出来るか心配ばかりでしたが、優しい先輩方の指導のおかげで、コツをつかむことができました。2年後に正規職員にしていただき、聖ヨゼフの園では、社会人としてのマナーも教わりました。確かに大変なこともありましたが、とてもやりがいのある仕事で、何よりもご利用者と関わり、たくさんのお話をしたことは、自分の人生の宝になり、そして命の尊さを教えていただきました。

ご利用者の「ありがとう」という温かいお言葉、上司や先輩、後輩が支えてくださったおかげで、私はここまで続けることができました。この感謝の気持ちを忘れず、これからも、ご利用者が少しでも楽しく一日を過ごせるように努めていきたいと思っています。

介護士　**坪本 宗一郎**

■　近所に住んでいたということもあり、私にとって聖ヨゼフの園は馴染み深い場所です。幼い頃、御神輿を担いで園内を周った際、いくつもの御像があったことが今でも印象に残っています。身近にこのような施設があったこともあるのか、福祉の道に進むことを決め、縁あって聖ヨゼフの園に就職することになりました。まさかこんな近くで働くことになるとは思ってもいませんでしたが、今考えると、これも神様のお導きだったのでは…と思うものです。

生活相談員の仕事は幅広く、入所相談や入退所の調整、ご利用者様・ご家族様からの相談対応、送迎や行事の企画など、なんでも屋といってもいいのかもしれません。ひとつひとつの仕事に心を込めて気付きを大切に、ご利用者様・ご家族様の心に寄り添えるよう、笑顔を忘れずに日々の業務にあたっていきたいと思います。

相談員　**中林 美紗**

■　私は、中学生くらいの頃から「お年寄りと関わる仕事がしたい」と考えていました。20歳の時に聖ヨゼフの園で働き始め、夢が叶いました。日々いろいろなことがありましたが、先輩方と後輩たちのおかげでここまで続けることができたと思います。感謝しています。また、カトリックについて全く無知の状態で就職しましたが、毎日触れる機会があり、遠い存在だったものがとても身近に感じることができるようになりました。そして、働き始めて、入居者やご家族の言葉が嬉しく、やりがいがあると感じました。

これからも、お一人おひとりとの関わりを大切にしながら、入居されている方々がより良く快適に過ごしていただけるように努めていきたいと思っています。

介護士　**黒山 詩織**

■　勤め始めてから今日という日まであっという間に時が過ぎていきました。

給食直営施設が少ない中、利用者の方と直接関わることが出来る栄養管理課主催の食事会や、季節を感じることができる行事食などが多い聖ヨゼフの園で働かせていただいている日々に、毎日感謝の気持ちでいっぱいです。

嗜好調査なども年一回行い、利用者の方一人ひとりのリアルな声を献立作成に生かすことが出来るのも直営施設ならではであり、栄養士として働く上でやりがいをとても感じています。

入職当初は、包丁を扱うこともままならず、迷惑ばかりおかけしましたが、今では支え、励ましてくれる仲間に恵まれ、楽しく勤めさせていただいています。時には大変だと感じることもありますが、利用者の方の生活の一部である食事が毎日の楽しみの一つとして過ごしていただけるよう、これからも勉強しながら努めていきたいと思います。

栄養士　**山中 千佳**

■　聖ヨゼフの園に就職して６年になります。長年、民間企業にいた私にとって、福祉の事務仕事は初めてであり、カトリックの教えに接するのも初めてでした。不安と戸惑いはありましたが、何事にも積極的に取り組み、持ち前の明るさで少しでも早く戦力になれるよう、職場の皆さんに助けていただきながら努力してきました。

直接、介護のお世話はできませんが、事務仕事以外で私が出来ることを考えながら、利用者様への声掛け、生け花を生けることで笑顔になっていただけることの嬉しさ、利用者様のご家族との会話を大切にし、これからも自分を見失わないよう努力していきたいと思います。

事務職員　**山本 眞理子**

■　入職当初を振り返ると、業務内容など覚えることが多く、戸惑いと焦りを感じることがありました。しかし、私が困っているときや悩んでいるときには、職員の皆様が手を差し伸べてくれ、今日まで勤めることができました。

カトリックの福祉施設ならではの「その人らしさを大切に、安らぎと楽しみのある生活を支援します」という重点目標に基づき、ご利用者様を主体として物事を考えるようにしています。業務の中で、ご利用者様から「ありがとう」というお言葉を頂けたときには、心が温かい気持ちになりました。また、会話の中で、ご利用者様が笑ってくださったときは、私自身幸せを感じることがあります。

今後も、感謝の気持ちと笑顔を忘れず、今まで以上に自分自身が成長し、ご利用者様、ご家族様、職員の皆様のお役に立てるような存在に成長していきたいと思います。

介護士　**朝倉 緩奈**

■　聖ヨゼフの園に入職してから3年経ちました。毎日があっという間で大変なことも沢山ありましたが、その中でも介護について、社会についてなど、色々なことを学ぶことができ、また、利用者様や職場の方々など沢山の人との新しい出会いがあり、会話や笑顔で仕事に取り組み、とても楽しく一日を終えています。

入職当初は緊張していたため、利用者様との会話などぎこちない面もありましたが、現在は、良い緊張感と多少の余裕ができ、自然な笑顔で利用者様の日常生活をお手伝いさせていただくことができ、それに応えてくださるように「ありがとう」と笑顔で返してくださるので、とてもやりがいを感じます。真剣かつ楽しく仕事を行えるのも、この施設に関わる皆様がとても温かく、困っているときには手を差し伸べて下さるからだと思います。これから先も大変なことが沢山あると思いますが、この施設で利用者様の笑顔を沢山見られるよう一生懸命取り組みます。

介護士　**城戸 美加子**

■　学生時代に実習先として訪れた際に、他の施設と何か違うと感じました。一つ目にカトリックの施設であるということです。私が知る限り、静岡県内では聖ヨゼフの園だけだと思います。どのようなことをするのか全然分かりませんでしたが、就職してから朝礼で聖書を読んだり、夕の聖歌やシスターのお話を聞いたりして、最初は戸惑いもありましたが、次第に慣れていきました。二つ目はご家族と一緒に過ごしているご利用者様が多いということです。基本理念の「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」にあるように、ご利用者様だけでなくご家族のこともケアしていくことの素晴らしさを学びました。

聖ヨゼフの園の50周年に比べるとほんの少ししかいませんが、お一人おひとりと向き合って、笑顔で元気に努めていこうと思います。

介護士　**南　朱音**

■　息子夫婦に聖ヨゼフの園が創立50周年を迎えたことを話しました。二人は共に医療関係の仕事をしているので、「すご～い！創立50周年、すご～い！」と言っていました。静岡の特養では一番古い施設と威張って言ってやりました。

聖ヨゼフの園でも利用者様が高齢化しています。「聖ヨゼフの園で穏やかに過ごしてほしい。聖ヨゼフの園での看取りを希望したい」と言ってくださるご家族が多くいます。私は、利用者様が穏やかに過ごしながら看取られるようにするにはどうしたらいいか、利用者様とご家族様と接しながら、コミュニケーションを取りながら考えていきたいと思っています。これからもより良い看護ができるように努力していきたいと思っています。

看護師　**岩﨑 笛美**

■　私が聖ヨゼフの園に最初に就職したのは、昭和51年２月、まだ措置制度の中での老人福祉の時代で、その頃は、個室や２人部屋もありましたが、８人部屋が中心で定員100名の特養でした。そのような環境の中であっても、敬老会やクリスマス会等の行事、書道や陶芸等のクラブ活動を通して生活の質の向上を求め、職員が皆で知恵を出し、力を合わせて頑張っていたことが懐かしくも良い思い出となっています。また、在宅福祉事業として、施設入浴サービス、機能回復訓練、短期保護事業にも先駆的に取り組み、在宅福祉の中心的な役割を果たしていました。

私は事務職として、庶務から財務管理と多忙な日々でした。また、介護保険制度への移行にも携わり、会計制度の変更、事業の追加、施設整備事業もあり貴重な経験をさせて頂きました。これからも施設職員として使命感を持ち、「仕事は厳しいけれど明るく楽しい職場」を目指したいと思います。

継続は力なり！

事務長　**薩川 福次**

■　社会の中で肉を背負い、黙々と生き続けている者に、とても大事なことを思い出させて下さる場所、私はそのように受け止めています。そもそも、全体から醸し出される何とも言えぬ「優しさ、愛、護られている感覚」には、深い安堵を覚えます。

聖なる方が幾重にもその都度、祈られた場所だからでしょうか。施設内の様々な場所に絶妙に配置される荘厳な「ご像」のお力でしょうか。常に立派な美しい白百合も添えられています。シスター方のお姿を拝見することもできます。人でありながら人に添うという業に入る前に、深い祈りを捧げておられる職員の方も散見します。

もしかすると、もっと深いところで、饒舌しがたいミッションを帯びているということでしょうか。益々のご繁栄、ご発展を心より祈念いたします。

相談員　**綿引 康之**

■　私が聖ヨゼフの園に就職したのは、今から22年前です。介護士、生活相談員として働き、一度別の職場に行きましたが、2017年より11年ぶりに看護師として戻り勤務しております。これまでの経験を活かし、色々な視点から入所者や家族を支えられたらと思います。

他の職場も経験し改めて感じたことは、カトリック施設としての聖ヨゼフの園の持つ特長です。夕の祈り、シスターやカトリック系学校生、園児の訪問などが、入所者や職員にとって目に見えない心の潤いになっているのではと思います。他の施設には真似できない特長を大切にして、聖ヨゼフの園が選ばれる施設となるよう、一員として努力していきたいと思います。

看護師　**大野 一貴**

■　私が聖ヨゼフの園で働かせていただいてから、早１年が経過しました。慣れない仕事で失敗ばかりでしたが、栄養管理課をはじめ、たくさんの職員の方に助けていただき、今日まで勤めることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

食事を通して、利用者様の健康を守り、笑顔にできるこの仕事が大好きです。形態や量が人それぞれ異なったり、除去食があったりと初めは大変でした。しかし、食事会などでお会いした時に、利用者様から「美味しかったよ。ありがとう」と笑顔で声を掛けていただく度に、「頑張って作ってよかった」と、とても嬉しい気持ちになります。

私がこうして仕事が出来るのも、たくさんの方々の助けがあってこそだと思います。困った時や分からない時にいつも声をかけて下さり、助けていただいています。感謝の気持ちを忘れず、早く一人前になって、周りの人を助けていけるように努めていきたいと思います。

栄養士　**川嶋 美穂**

■　聖ヨゼフの園に勤め始めた頃は、右も左も分からず、戸惑うことばかりでした。しかし、利用者様やそのご家族をはじめ、上司や先輩職員などたくさんの方々に支えていただき、多くのことを学ぶことができました。おかげで自分に自信を持ち、やりがいを感じながら働くことができ、心から感謝しています。

私は、高校時代に介護職の道を選択しました。その最大の理由は、人と人が接するときに自然と醸し出される温かな雰囲気を共有できるのが魅力と感じたからです。最近では、利用者様とコミュニケーションを取っているとき、心と心が通じ合ったと思うことがしばしばあり、温かな雰囲気に包まれていると感じます。

これからも初心を忘れずに、「温かさ」を提供し、共有できるように努めていきたいと思います。

介護士　**井出 あかね**

■　聖ヨゼフの園に入職したばかりの頃、私は、ご利用者様が落ち着かれなくなったときや、介助を拒否されたとき、どう接してよいか分からず壁にぶつかっていました。普段とは異なる様子の方を前にすると焦り、上手な声掛けが思いつきませんでした。上司や先輩方から助言をもらい、ご利用者様の性格や普段の過ごし方、よく話されるエピソード等にも注目をしました。まずは「その方」を理解することを心掛けました。その甲斐あり現在は、以前よりも落ち着いてご利用者様と向き合うことが出来るようになったと思います。その後、ご利用者様から「いつもありがとう」「信頼しているよ」とお声を掛けていただくことや、笑顔で手を握ってくださることもありました。その時、この仕事を行っていて本当に良かったと思いました。

今後も、聖ヨゼフの園の一員として、ご利用者様が安心して過ごされることが出来るよう、初心を忘れず努めていきたいと思います。

介護士　**入江 由野**

1967年生まれの私は、今年52歳になります。今まで民間の企業で働いてきたので、社会福祉法人の社会福祉施設での仕事、それもカトリック精神に基づいた聖ヨゼフの園での仕事は、本当に感動や感謝することがたくさんあります。

朝の祈りの中にありますように、「物事がうまくいかないときでも、ほほえみを忘れず、いつも物事の明るい面を見、最悪のときにも感謝すべきものがあることを悟らせてください。自分のしたいことばかりではなく、あなたの望まれることを行い、まわりの人たちのことを考えて生きる喜びを見出させてください」。52年間の人生の中で、私が毎日心がけてきたことが、この朝の祈りそのもので、初めて朝礼に出させていただいた時は、涙が出てきたことを覚えています。

これからも優しい気持ちで、一日一日に感謝し、心を込めて一生懸命仕事をさせていただきます。このご縁に感謝でいっぱいです。

栄養士　**木岡 順子**

聖ヨゼフの園は、とても“食”を大切にしていると思います。毎月行われる行事食では、季節に合った、また、栄養管理課で案を出し合って考えた食事を提供しています。そして、お年寄りに寄り添い、笑顔の溢れる交流と彩り良く、目でも楽しめる食事をお年寄りも喜んでくださり、大変作りがいがあります。普段の食事でも、とても手の込んだ料理を作っており、大量調理にもかかわらず、入職当初から大変感動しております。

食後のお年寄りとすれ違うと、「美味しかったよ。ありがとうねぇ」と言われることが多く、その一言がとても嬉しく、自然と笑顔が溢れ、「また明日も頑張ろう!!」という気持ちになれ、栄養士をやっていてよかったなと思います。

まだまだ慣れないことが多く、日々勉強させていただいていますが、これからも安心で安全な美味しい食事を提供できるよう努めていきます。

栄養士　**石谷　光**

私が介護の仕事を始めて、もう20年になります。途中で休職や転職をしていますので、実際はもっと短いのですが、それでも何とかやってこられたのは、色々な場面で、様々な形で助けて下さった方がいたからでした。感謝の気持ちを忘れずに、これからも努めていきたいと思います。

聖ヨゼフの園の長い歴史の中で、私は、まだほんの少ししか関わっていません。でも、長い間、感謝の気持ちを積み重ねてこられたのだろうと感じます。50年も続いてきた間には、どれほど多くのご利用者様やスタッフの気持ちがあったでしょうか。そのことに思いを寄せながら、これからも一日一日を大事に努めていきたいと思います。

介護士　**蕪木 みゆき**

私は、昨年12月に聖ヨゼフの園に介護職員として就職させていただきました。正確に言うと、再び就職したというのが正しいです。一度目は、今から19年前の平成12年から４年間働かせていただきました。

20年近くも時が経つと、人も物も随分変わっていました。変わっていないのは、カトリック精神に則って運営されていることです。現場の中で感じる場面はなかなかありませんが、ご利用者の皆様が、日々穏やかであり、笑顔のある生活が送れるよう、お手伝いをさせていただこうと思っています。

人生の最終章を、この聖ヨゼフの園で過ごしておられるご利用者の方が、「聖ヨゼフの園に入所して良かった」「幸せだったぁ」と、穏やかな最期を迎えられるよう、日々のケアを大事にしていきたいと思います。

介護士　**榊原 康美**

■ “疲れた者、重荷を負う者はだれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう”

聖ヨゼフの園は、50年前にシスターたちの献身的な働きにより建てられました。50年の間に時代も変わり、法律や制度が制定され、人々のライフスタイルや考え方も変わってきました。その変化する時代の中でも聖ヨゼフの園が続けてこられたのは、その変化に柔軟に対応しながら人々に寄り添ったサービスを提供し、また、ボランティアや地域住民の方々など多くの人たちの協力と支えがあったからだと思います。

50年間、物事を続けるということは、簡単なことではありません。私は入職してまだ間もないですが、聖ヨゼフの園を建てたシスターのように献身的な気持ちを忘れず、また、聖ヨゼフの園の職員であることに誇りを持ち、前文の基本理念を信念に努めていきたいと思います。

相談員　**中川 勇人**

■ 私は、聖ヨゼフの園の介護職員として働き始めてまだ日は浅いですが、創立50周年という歴史のある施設で働けていることに喜びを感じています。まだまだ知識も経験も足りず、介護士としては未熟ですが、カトリックの福祉施設で働くという意識を持ち、利用者様との心の繋がりを大切にし、日々を過ごしていきたいです。これから何十年、何百年と歴史が続くであろう聖ヨゼフの園で働く一職員として、カトリック精神を忘れず、利用者様が「愛されている」と感じられるような介護を提供していきたいと思っています。そのために、日々、利用者様を第一に考え、利用者様に信頼していただける介護士になれるよう努めていきたいです。

介護士　**赤木 優花**

■ 私は、この４月に聖ヨゼフの園に転職をしました。初めは、毎日朝の祈りを行い、夕方にはシスターによる夕の祈りで一日に感謝をするということに驚きもありました。しかし、利用者さんの中にマリア様の像の前でお祈りをしている方を見ると、神はいつも見守っていてくれる存在なのだと感じるようになってきました。

利用者さんが少しでも穏やかに安心して過ごすことができるように、看護師として何ができるだろうかと考えながら仕事ができることにやりがいを感じています。これからも全ての利用者さんが穏やかに過ごせるよう、看護師同士だけでなく、介護士や栄養士などともコミュニケーションを取り合い、利用者さんと職員間の橋渡しができるような看護師になっていけるように努力を続けていきたいと思います。

看護師　**小林 江里奈**

■ 創立50周年という記念すべき年に、この聖ヨゼフの園に就職して、早数ヶ月が経とうとしています。はじめは、仕事を覚えることに必死でしたが、施設長をはじめ職員の方々の温かいご指導と支えのおかげで、今日まで勤めることができています。

仕事の中で、利用者様から「ありがとう」という感謝の言葉や笑顔を頂いたとき、この介護という仕事を選んで良かったと思う瞬間が多々あります。時にこの仕事の大変さを痛感する場面もありますが、とてもやりがいのある仕事だと感じています。人の人生の一部分に介護という形で関わることができることは、尊いことであると思います。これからも、利用者様方への尊敬の念を忘れずに、笑顔で安心した暮らしを送ることができるよう努めていきたいと思います。

介護士　**澤木 弘真**

今年の４月に聖ヨゼフの園に入職しました。日々変わり続ける現場で、一職員として活躍できるよう奮闘する毎日です。利用者様の温かみに一番触れることができるのがこの仕事の魅力であると感じています。自分自身の資質の向上ができる点も介護の仕事を選んだきっかけです。

入職して４ヶ月目に入ろうとしている頃ですが、まだ不慣れのことが多く苦労しています。しかし、人生の大先輩である利用者様と多く関わることができ、多様な価値観に触れられることがやりがいのように思えます。

まだ不慣れですが、慣れてくると所々に油断が生じてしまうこともあるかと思います。慣れている内容こそ基本を大切にし、仕事を果たしていきたいです。

介護士　**竹下 大地**

私は、小学生の頃から、将来の夢を聞かれるたびに、「人の役に立つ福祉の仕事をしたい」と言ってきました。それは中学生になっても変わることなく、家族の勧めもあり、高校では福祉科に進み、介護福祉士の資格を取りました。そして、今年度入職しましたが、実習生として高校生の頃から聖ヨゼフの園にお世話になっていました。その時から職員の皆さんがとても明るくて、また親切にしていただいて、私もこのような介護士になれたらいいなと思いました。

私は、まだ介護士の仕事を始めたばかりですが、聖ヨゼフの園に入所された利用者さんに、これからも心を込めて大切に介護の仕事を頑張っていきたいと思います。そして、ご家族の皆様にも「聖ヨゼフの園に入所してよかった」と言っていただけるように頑張りたいと思います。

介護士　**牧野 文美**

私は、今年度から聖ヨゼフの園で仕事をさせていただいています。まだまだ覚える事も多く、失敗の日々ですが、ご利用者様から「ありがとう。助かったよ」と温かい声をかけていただき、毎日頑張れています。先輩職員の皆さまにも優しく接していただき、毎日笑顔が絶えない職場で楽しく仕事ができています。

聖ヨゼフの園で仕事ができること、皆さまに出会えたことに日々感謝して毎日を過ごし、ご利用者様の個性を大切にして仕事をしていきたいと思います。

介護士　**斉藤　健**

身内の介護を約10年間経て、他職種から介護職に就き、介護職の奥深さに脱帽しました。身内の介護中に感じた不安が今現在になり、具体的な解決策を知り、学ぶことだらけの日々です。身内でない私がご利用者に携わる中で「あなたがいてよかった」「ここがあってよかった」というご利用者ご家族からの言葉は、何事にも変えがたい言葉です。介護技術が進歩し、介護ロボットも導入され始めた時代となりましたが、扱うのは人の手です。介護知識も重要ですが、人として些細な気づきや対話を大切にしていかなければなりません。福祉という名のもとに専門性だけでなく、その方を知り、十人十色の生活を支えるために、心と心の繋がりを大事に、相手の立場に立ち、考え、学ぶことを怠らず、初心を忘れず、これからもご利用者ご家族に満足していただけるよう、笑顔と生き甲斐のある福祉を望み、目指していきます。

介護士　**冨田 眞美**

	国の施策等	聖ヨゼフの園の歩み
昭和38年	老人福祉法改正 特別養護老人ホーム、養護老人ホーム等が老人福祉施設として規定される。	
昭和43年	寝たきり老人問題が社会問題となる。	
昭和44年		特別養護老人ホーム聖ヨゼフの園開園 園長 伊東 千鶴子シスター（定員50人）
昭和45年	65歳以上人口比率が７％を超え、高齢化社会に入る。 中央社会福祉審議会から「社会福祉施設の緊急整備について」が発表される。	機能回復訓練を開始 運動会（屋内）、作品展を開始
昭和47年	老人医療費支給制度の創設	50床を増床（定員100人） 高松宮様ご夫妻ご来園 ベッド体操、お話会を開始 文集「ヨゼフの光」創刊号を発行
昭和48年	福祉元年 老人医療費無料化制度の創設、高額療養費制度の導入、年金の給付水準の大幅な引き上げ等、社会保障の大幅な拡充が図られる。 オイルショックにより一転、「社会福祉の見直し」へ	在宅サービス（入浴・機能回復訓練）開始 洞慶院へ車で外出
昭和49年		クラブ活動開始
昭和50年		愛宕霊園に墓地を設置 車イスで森下公園へ外出
昭和53年	寝たきり老人短期保護事業の創設	ショートステイ開始
昭和54年	通所サービス事業の創設	**— 創立10周年 —** 離床運動への取り組みを開始 売店、作業室を設置 食堂拡張
昭和55年	老人福祉施設の費用徴収が入所者本人、扶養義務者の二本立て方式に変更	
昭和56年		家族会開催
昭和58年	老人保健法制定 老人医療費無料化制度が廃止され、一部負担が導入	随時オムツ交換の取り組み開始 ボランティアの導入 機関紙「ヨゼフの四季」創刊
昭和59年	老人ホーム入所措置の適正化のため、「老人ホームの入所判定」（厚生省社会局長通知）が発出される。 認知症ケアに関する研修事業が開始	
昭和61年	老人保健施設の制度化	
昭和62年	社会福祉士及び介護福祉士法が制定され、福祉専門職が制度化 東京都東村山市の特別養護老人ホーム松寿園で火災が発生（死者17名）	緊急通報システム、スプリンクラー設置

	国の施策等	聖ヨゼフの園の歩み
平成元年	高齢者保健福祉推進10か年戦略（ゴールドプラン）の策定 ～高齢者介護基盤の計画的整備の推進～	付属棟を増築し、高齢者介護ホームを開設 **— 創立20周年 —**
平成２年	福祉関係８法の改正（ゴールドプラン実施のための体制づくり） ＜老人福祉法関係＞ ①在宅福祉サービスの積極的な推進 ②在宅・施設サービスの実施に係る権限の市町村への一元化 ③地方自治体における老人保健福祉計画策定の義務付け	
平成４年		定員を90人に変更 高齢者介護ホームがデイサービスＥ型に移行
平成５年		園長 志田 利 就任
平成６年	新ゴールドプラン策定 ゴールドプランが全面的に見直され、当面緊急に行うべき高齢者介護基盤の整備目標が引き上げられる。	在宅介護支援センターを開設 ホームヘルパー派遣事業を開始 **— 創立25周年 —**
平成７年		利用者の処遇向上、事業の円滑な推進のため10の委員会を設置
平成８年		青空デイサービス実施
平成９年	介護保険法制定	園長 芹沢 博仁 就任
平成10年		園長 堀池 巌 就任 青空デイ事業がデイサービスＤ型に移行
平成11年		**— 創立30周年 —** 居宅介護支援事業を開始
平成12年	介護保険法施行	デイサービスセンター開設 園長 石月 中 就任 介護保険法の施行により介護保険施設・事業所として事業を開始
平成13年		給食の適時適温体制の取り組みを開始
平成17年	介護保険法改正 ①予防重視型システムへの転換 ②施設における食費・居住費を介護保険の給付対象から除外 ③新たなサービス体系の確立 地域密着型サービスの導入、地域包括支援センターの創設 後期高齢者医療制度の創設	
平成19年		ユニット棟増築 園長 稲川 直子 就任
平成20年	介護保険法改正 コムスン問題を受け、介護サービス事業者の不正事案の防止、介護事業運営の適正化が図られる。	本館の改修及び耐震補強工事完了

	国の施策等	聖ヨゼフの園の歩み
平成21年		― 創立40周年 ―
平成23年	介護保険法改正 ①地域包括ケアの推進 ②介護予防・日常生活支援総合事業の創設 ③介護職員等による痰の吸引等の実施 高齢者の居住の安全確保に関する法律（高齢者住まい法）の改正 サービス付き高齢者向け住宅が創設され、高齢者向け住宅の整備促進が図られる	キャリアパス表に基づく職員研修計画実施
平成24年		静岡県社会福祉協議会の第三者評価を受審
平成25年		静岡市運動器機能向上事業「しぞーかでん伝体操教室」を受託
平成26年		園長 森 政也 就任
平成27年	介護保険法改正 ①訪問介護及び通所介護の予防給付が地域支援事業に移行 ②特養の新規入所者が原則として、要介護３以上の高齢者に限定 ③一定以上の所得がある利用者の自己負担を２割に引き上げ	特養優先入所基準の改正
平成28年		ホームページリニューアル 非常用井戸設置
平成29年		聖ヨゼフ診療所開院 ２階ホール改修工事完了
平成30年	介護保険法改正 ①２割負担者のうち特に所得の高い層の負担割合を３割に引き上げ ②福祉用具貸与価格の適正化 ③介護医療院の創設	デイサービスＥ型事業廃止 特別養護老人ホーム施設長 松下 公子 就任
平成31年		ショートステイ事業廃止
令和元年		本館廊下エアコン設置工事完了 ― 創立50周年 ―

（八幡教会聖堂）

昭和26年（1951年）９月	カトリック静岡八幡教会創立
昭和27年（1952年）３月	天使の聖母修道院開院（天使の聖母宣教修道女会）
昭和27年（1952年）４月	八幡聖母幼稚園開園
昭和28年（1953年）６月	聖ヨゼフ診療所開院（～昭和44年）
昭和44年（1969年）６月	特別養護老人ホーム聖ヨゼフの園開園
平成29年（2017年）４月	新・聖ヨゼフ診療所開院

社会福祉法人 聖母福祉会　特別養護老人ホーム 聖ヨゼフの園　創立50周年記念誌
発行／社会福祉法人 聖母福祉会　発行日／令和元年11月　企画／株式会社横山事務器　印刷／シオサカ印刷株式会社

St.Joseph’s Garden

Special nursing home for the elderly , since 1969